平成２９年１１月 経営協議会議事録

Ⅰ．日　時　　平成２９年１１月１６日（木）　１４時００分～１６時１５分

Ⅱ．場　所　　千葉大学けやき会館レセプションホール（３階）

Ⅲ．出席者　　徳久学長、有馬、犬養、香藤、河田、黒木、島田、銭谷、西堀、
萩原、舩橋、正宗、宮坂
中谷、渡邉、関、山田、猿渡、小澤、金原、中山、山本
齊藤各委員

ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　　桑古監事
（欠席者：加賀見、武藤、堀、佐藤各委員）

Ⅳ．前回審議議事録について
原案のとおり承認された。

Ⅴ．審議事項（◎学外委員、○学内委員）

１．国立大学法人千葉大学就業規則等の一部改正（案）等について
猿渡理事から、国立大学法人千葉大学就業規則等の一部改正（案）等について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

主な意見は以下のとおり。

◎　無期転換で雇用する最終判断を部局長とすることは決定プロセスとして問題ないと思うが、最終的には大学の責任となる。このような点も踏まえた上で、今回の案においては最終的な判断を部局長に委ね、結果責任も部局長にあるという認識でよいのか。
また、定年規定により年齢が定められているが、今後、年金支給開始年齢が延長されるかもしれない。一般企業などでは年金支給開始年齢までの繋ぎとして再雇用制度が導入されているが、千葉大学では考慮されているのか。

○　更新の判断は部局長としているが、その結果を事務局へ報告していただくこととなっており、万が一の事があった場合は、大学として手を打てる仕組みとなっている。
常勤職員については、すでに再雇用の仕組みを持っており、無期転換された方にも再雇用の規程が適用されるようにしている。

２．重要な財産の譲渡について

猿渡理事から、重要な財産の譲渡について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

主な意見は以下のとおり。

○　亥鼻キャンパス周辺道路は、本学学生が通学に利用しているが、危険な状況が続いているため、是非実現をお願いしたい。また、譲渡する土地には多くの樹木があり、学生の学習、教育研究環境を良くしている面もあるため、譲渡した後、大学本部として学習、教育研究環境を整備していただきたい。

○　この道路は近隣小学生の通学路でもあるため、拡幅は千葉大学の社会的使命でもあると考える。

◎　売却金額の半分は国に納めることになるのか。

○　文部科学省と事前交渉を行ったが、単に売り払った場合、その半分が国庫に入り、国立大学全体の整備に充てる仕組みとなる。

◎　将来的に国立大学運営費交付金は下がっていく。それを賄うため大学自身がレベニューを上げるような対応策をとらなければならない。持っている資産をいかに有効活用して千葉大学の経営安定に資するかということ。もし時代に合わない規制があるのなら、その制度を変える運動をすべきである。

◎　元々国立大学は国有財産であり、仮に売却しても国庫にしか入らなかったものを国立大学が法人になった際に、半分は各大学が自由に使えるようにしたもので、当時は前に進めた制度であったが、それから１０数年経ち、この制度をこのまま維持していくかという問題はある。

子供の安全を考慮した道路の拡張は賛成だが、世の中には木を大切にする人々がいるため、樹木をどうするか、緑化の観点からもよく考えたほうが良い。

Ⅵ. 協議事項（◎学外委員、○学内委員）

１．人工知能（ＡＩ）研究の充実・展開による世界最高水準の教育研究の実現について

中谷理事から、人工知能（ＡＩ）研究の充実・展開による世界最高水準の教育研究の実現について資料に基づき説明があり、引き続き、関理事から、補足説明があった。

主な意見は以下のとおり。

◎　自前で行う際、人のソースがすごくかかる。

○　日本の中で１歩先を行きたい。

○　この分野で重要なことはデータである。今はデータの囲い込みが行われており、データを持っているところが強い。例えば病院の医療データを大量にもっているが、実際に使えるデータにすることに大変な手間がかかっている。最終的には活用できるデータを共有する仕組みを大学内に作る必要がある。

◎　すべての大学に共通したデータを入れる作業は、千葉大学だけではなく、共同で行った方が効率が良いと思うが、そのような動きはあるのか。

○　まだない状況である。

◎　電子カルテが全国共通ではない。全国の大学がデータの囲い込みをしている中で、千葉大学としての特色がでるようなことをやっていく必要がある。

○　国立大学病院が診療データをバックアップしており、それを使おうとする動きがあるが、電子カルテが共通でないことと、アナログデータがあるため、共通で使うことは非常に難しい状況である。一方で現在はデータを加工して使えるようにする第３者機関の創設が進んでいる。

◎　千葉大学では、まじめな研究が出てくると思うが、是非とも話題性のあるものが出てくることを期待している。

○　学内であたりまえのようにＡＩについて、ディスカッションできる空気を作っていきたい。

◎　わかりやすいテーマで研究してほしい。
どの大学病院や医学部も、医療ビックデータはたくさん持っているはずで、データ量等の違いはあるが、こんな研究ができるという発想を大事にしてほしい。学内公募の取り組み結果に期待したい。

◎　高齢化社会の中で、健康的なライフスタイルを送るために、ＡＩが我々のためになるような社会的用途をわかりやすく伝えるような研究をすれば、文部科学省のみならず企業等から支援が得られると思う。

◎　千葉大学は県内の地域医療に多大な人材を輩出しているが、県内の県立病院や公立病院との連携は考えているのか。
　なんでもＡＩというようなメッセージが、一般に受け取られるのはよくない。ＡＩが進化すれば職場も大きく変わり、仕事を奪われると思う方もいるかもしれない。ＡＩは社会を変えると思うので、そういったこともセットで研究されてはどうか。

○　今回の募集の中でも、ＡＩが社会に与える影響についても研究テーマで行っていただきたいと考えている。また、ＡＩがツールとして皆さんが使えるようになったり、研究の手法として取り入れたときに研究が更に進化するという視点なので、なんでもＡＩでという考えではない。

○　県立病院等との連携については、千葉大学関連病院会議を組織し、医療情報関連の共通化をはじめ、経営、その他の分野で千葉大学がリーダシップを取れるよう考えている。

Ⅶ．報告事項（◎学外委員、○学内委員）

１．平成２８年度に係る業務の実績に関する評価結果（原案）について

　中谷理事から、平成２８年度に係る業務の実績に関する評価結果（原案）について、資料に基づき説明があった。

主な意見は以下のとおり。

◎　すべての項目が順調以上で大変よかったとのことだが、この結果は運営費交付金にどの程度反映されるのか。

○　第２期の評価結果は既に出ており、第１期と同程度の評価結果なので、前回と同様の配分方針が維持されるのであれば第３期途中からこれまでと同額程度のプラス１億円配分される。

◎　大学によっては更にいい評価を得ているところもある。将来的に増額することもあると思うが、千葉大学としてはどのような自己評価をしているのか。更に評価を上げるために何をすればよいのかを考える必要があるのではないか。

○　毎年度、年度計画を作成し、項目ごとに目標を立てている。今年度も半分以上経ったので、年度計画がどの程度達成されているのかを検証しており、項目ごとにフィードバックしている。年度が終わるまでには目標を達成できるよう努力し、来年度６月に文部科学省へ自己点検・評価

を報告することとなっている。その際に千葉大学内での優れた取組み等をしっかり記載すれば、全体評価に反映されることとなる。

◎　研究費獲得促進プログラムについて、どのような方を支援しているのか。

○　１つ目はステップアップとして、科学研究費を獲得した方が次の年に上の種目を目指す方を支援する。２つ目は科学研究費以外の獲得を目指す方を支援している。３つ目は科学研究費を連続で獲得していた方が、仮に落ちてしまっても、これまでＡ評価を受けている場合は支援をすることを行っている。

２．学部等附属の教育研究施設の設置について

中谷理事から、学部等附属の教育研究施設（医学研究院附属治療学人工知能(AI)研究センター及び医学研究院附属バイオリソース教育研究センター）の設置について、資料に基づき説明があった。

主な意見は以下のとおり。

◎　ＡＩと倫理についてはどのような考えか。

○　医療ビックデータのほとんどが患者の個人情報にあたるため、匿名化を含めて厳密に行うこととしている。臨床研究中核病院であり、生命倫理審査、病院ＩＲＢなどが揃っている大学病院がはじめて成し遂げることができると考える。

◎　倫理や法令順守の問題は、意識しておくべきである。

３．平成２９年度科学研究費助成事業の配分について

関理事から、平成２９年度科学研究費助成事業の配分について、資料に基づき説明があった。

４．その他

①附属病院における多剤耐性緑膿菌の検出について

中谷理事から、附属病院における多剤耐性緑膿菌の検出について、資料に基づき説明があり、山本副学長から補足説明があった。

以上